

はぐく  
豊かな心を育むひまわりプラン

(学校教育指導計画)



座間市教育委員会

## はじめに

現在、教育を取り巻く社会状況には、国際化・情報化の進展、少子・高齢化の進行、価値観の多様化など急激な変化が見られ、社会のさまざまな分野において、大きな改革が進められています。

しかし、家庭や地域の教育力が低下し、児童生徒の学ぶ意欲の低下や生活習慣の未確立、自立心や社会性の欠如などに加えて、いじめ、不登校、校内暴力、学級崩壊など、さまざまな教育課題が表出しています。まさに、子どもたちを取り巻く状況は不透明で、厳しい冬の時代を迎えています。

本市の学校教育に目を向けると、市内各小中学校の児童生徒は落ち着いており、日々の教育活動が円滑に実践されている状況にあります。その一方で、子どもたちの生活経験や自然体験の不足、規範意識の低下や問題行動の深刻化など、課題も多い状況です。また、かつては、さまざまな「ふれあい」や「体験」を通して、子どもたちの心を育てる土壌としての役割を果たしてきた地域社会は、社会構造の変化に伴い、その教育力を失いつつあるように思われます。そのような時代を迎えた今、学校・家庭・地域社会が一体となり、豊かな人間性や社会性を育む教育を推進することが一層求められています。

本市は、かつて「座間幼年会」活動(明治～昭和初期)を通して、自分たちの手でよりよいまちづくりをめざし、子どもたちを育成したという地域の力強い教育の足跡があります。その精神や教育の理想は、今も脈々と座間の風土として地域社会や人々の心の中に生き続けているように思われます。地域社会の教育力を改めて掘り起こしながら、さまざまな教育課題に対応していくことが必要とされているのではないのでしょうか。

教育委員会では、青少年の問題行動等を克服するには、子どもたちに命の大切さや思いやる心、善悪の判断などの規範意識や公共心などを教える「心の教育」が必要であると考え、平成16年度から、重点主題を「豊かな心の育成」として、各学校での取組を一層深化・浸透させ、信頼され誇りのもてる学校づくりの推進に取り組んでまいりました。

これまでに進めてきた本市における学校教育の取組を大切にしながら、さらに「豊かな心」が一層育まれるようにという願いから、ここに「豊かな心を育むひまわりプラン」を策定いたしました。本市の考える「豊かな心」とはどんなことか、本市の学校教育を受ける子どもたちには、どんな大人になってほしいのかなどを策定委員会で協議し、新たにここに示しました。今まで以上に子どもたちの学びが充実するように、このプランに基づき学校教育活動を推進して参ります。

最後に、このプラン策定にあたり、貴重な御提言をいただきました皆様に心から御礼申し上げますとともに、より一層の御理解と御協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

平成23年3月

座間市教育委員会教育長 金子 槇之輔

# 目 次

I	策定の趣旨	1
II	期間	2
III	「豊かな心を育むひまわりプラン」の位置づけ	2
	1 「学校教育指導計画」との関係	
	2 「第四次座間市総合計画」との関係	
IV	現状と課題	2
	1 子どもたちの現状	
	2 教育上の課題	
	3 「豊かな心の育成」に関する取組	
V	めざす大人像	4
VI	豊かな心とは	5
VII	豊かな心を育むために	6
	1 学校では	
	2 家庭では	
	3 地域では	
VIII	ざまっ子 八つの誓い	7
IX	「豊かな心を育むひまわりプラン」のイメージ図	9
X	学校がめざしていること	10
	策定における検討経過	11
	策定委員会構成員	12
	資料 豊かな心をはぐくむ教育の推進のための調査用紙	12

## I 策定の趣旨

教育の基本理念は、人格の形成にあります。そして、その理念を達成するために、学校教育は知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒の育成をめざすことが求められます。これには、学校教育の目標をふまえ、一層充実した教育効果をあげられるよう、積極的な教育の向上を図ることが重要です。

これからの社会において、児童生徒が心豊かに主体的・創造的に生きることができる資質や能力（「生きる力」）を育成するために、学校教育においては基礎基本の徹底を図り、一人ひとりの個性を生かす教育を推進するとともに、生涯にわたる学習の基礎となる健やかでたくましい心身が育つよう、家庭・地域と連携し豊かな人間性を育む教育の一層の深化・浸透に努めることが肝要です。特に近年では、児童生徒の倫理観や社会性の不足、規範意識の低下、自立の遅れなどの問題が見られることから、学校・家庭・地域の密接なつながりの中で、豊かな心の育成の充実を一層図る必要があります。

教師には、児童生徒の良さや可能性を生かすことを指導の中心に据えた上で、児童生徒が自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力その他の能力を育むことができるように、また児童生徒が力強い意志と自主・自律の精神を持ち、自然愛・人間愛にも優れ、心情豊かに心身ともに健康で、自ら考え正しい判断のもとに行動できるように指導することが求められます。教師は、正しい教育観や豊かな人間性を基盤として、一人ひとりの児童生徒の個性を把握し、その能力等の伸長を図るよう努める必要があります。教師は、特に児童生徒の学習意欲・興味・関心等が、教師の熱意と指導力により一層高まることを自覚し、広い視野と教養を身につけ、常に創造性を発揮し、市民の信頼に応える教育を進めることが大切です。これらのことを一人ひとりの教師が認識し、共通理解のもとに、学校教育における諸活動の中で、学校教育の目標の具現化に向けて意図的・計画的に教育を実践する必要があります。

本市では、座間市らしさを大切にされた学校教育を展開する第一歩として、「豊かな心の育成」を平成16年度から学校教育の重点主題として定め、各学校ではそれぞれの特色を生かした取組を展開し、児童生徒の心を豊かに育んできました。平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査の結果を見ても、小学校では「思いやりの心が育っている」また、中学校では、「あいさつがよくできる」「きまりを守る態度が育まれている」など豊かな心が着実に育成されてきた成果が表れています。

この間、平成18年の教育基本法の改正に始まり、引き続き学校教育法の改正、新学習指導要領の公示と、次々と新しい教育の方向性が示されました。そして平成21年度からは小学校・中学校において一部が先行実施され、平成23年4月からは小学校において、平成24年4月には中学校において完全実施されることとなります。

そこで、座間市教育委員会では、平成21年度に「豊かな心を育むひまわりプラン」の策定委員会を設置し、これまでの学校教育における重点主題である「豊かな心の育成」についての取組を見直すとともに、今後の10年間を見据え、新しい時代の本市の教育行政の確立をめざして、座間市学校教育指導計画の中核である「豊かな心を育むひまわりプラン」を策定するものです。

## II 期間

「豊かな心を育むひまわりプラン」の計画期間は、平成23年度から32年度までの10年間とします。



## III 「豊かな心を育むひまわりプラン」の位置づけ

### 1 「学校教育指導計画」との関係

「豊かな心を育むひまわりプラン」は、教育指導課が所管する10年間のすべての事業の根幹をなすものであり、座間市教育委員会の学校教育の方向性を示すものとして位置づけます。

「学校教育指導計画」は、「豊かな心を育むひまわりプラン」に基づいて、毎年改訂します。

### 2 「第四次座間市総合計画」との関係

第四次座間市総合計画は、平成32（2020）年度を目標年次とする10年でめざすべき将来目標を設定し、実現に向けて基本構想を策定しています。教育における将来目標は、「のびやかに 豊かな心 育むまち」と決めました。

そして、「豊かな心を育むひまわりプラン」は、座間市教育委員会教育指導課が、この第四次座間市総合計画と整合性を図りながら定める実施計画であり、実施計画事業として位置づけられています。

## IV 現状と課題

平成21年度に座間市内小中学校を対象に、「学習」「心」「体力」「家庭・地域」「その他」の観点から見た子どもたちの現状、各学校において「教育上の諸課題」として捉えていること、また、「豊かな心の育成」をめざして現在取り組んでいること等について調査しました。

（ 調査用紙は、12ページ参照 ）

### 1 子どもたちの現状

#### (1) 「学習」の観点から

小学校では、指示された課題に前向きに取り組む児童が多い反面、個人差があり、個別指導を要する児童の増加や、思考力、表現力に課題が見られるという傾向がありました。

中学校では、全体的に落ち着いた学習環境のなかで、前向きに取り組む生徒が多い反面、課題としては、学習面での支援を必要とする生徒の増加が見られ個々の教育的ニーズに応じたきめ細かな対応が必要となっていることがあげられました。また、家庭学習の習慣がない生徒など学習意欲や能力面での格差が非常に大きく、学力の二極化が見られるという傾向がありました。

#### (2) 「心」の観点から

小学校では、総体的に、明るく素直で、思いやりのある児童が多いという傾向が見られました。課題としては、落ち着きがなく、ねばり強く努力することができないため、集中力に欠ける児童や、集団の中でコミュニケーションがとれず、なかなか良い人間関係がつかれない児童がいること、自尊感情が低く、内面に様々な問題を抱えている児童がいることなどがあげられました。

中学校では、明るく素直な生徒が多く、他を思いやる気持ちも育っているという傾向が見られました。課題としては、感情の起伏が激しく、自己中心的な行動をとる生徒や、人間関係づくりが苦手な生徒が増えてきていることがあげられました。

(3) 「体力」の観点から

小学校では、運動やスポーツをすることが好きで、全体的に外遊びが好きな児童が多いという傾向が見られました。課題としては、運動する児童とそうでない児童の二極化の傾向があることがあげられました。

中学校では、運動部に入学している生徒が多く、運動能力も向上している傾向が見られました。課題としては、「(日常生活の中で) 疲労を感じている」と答えた生徒が多くなっていることがあげられました。

(4) 「家庭・地域」の観点から

小学校では、地域の方との関わりが深く学校に対して協力的で、学校行事などにも多くの協力者の参加があることや、大部分の家庭は子どもの教育に対し熱心で、学校教育にも理解があり、協力的である傾向が見られました。課題としては、家庭における教育観には大きな差があり、「早寝・早起き・朝ごはん」を含めた基本的な生活習慣への関心が低い家庭の存在や、教育に熱心な家庭が多い反面、学校に対する要求も多いことなどがあげられました。

中学校では、地域や保護者はほとんどが協力的であるという傾向が見られました。課題としては、学校の教育方針や指導について理解していただけない家庭が見られ、そのような家庭との連携が難しい点や我が子の教育に関して関心が高く、総じて権利意識も強くなってきていることがあげられました。



(5) その他

小学校では、児童一人ひとりが全般的に明るく伸び伸びして、きまりを守ろうという意識をもっている傾向が見られました。課題としては、生活面で、社会的規範が希薄な児童がいて、指導に苦慮している点や、保護者の意識や家庭の教育力の低下による影響が子どもに及んできている点があげられました。

中学校では、課題として、人との接し方やことばの使い方等コミュニケーション能力がやや不足している生徒がいることがあげられました。

## 2 教育上の課題

小学校では、家庭との連携、学習習慣づくり、特別支援教育の充実、自己表現力、社会的規範意識、体力づくりなどを課題として捉えているという結果となりました。

中学校では、授業力の向上、道徳教育の充実、低学力の生徒の問題も含めた学習の在り方、保護者・生徒との信頼関係づくり、家庭(親)の保護能力、家庭教育力の低下、規範意識の低下などを課題として捉えているという結果となりました。



### 3 「豊かな心の育成」に関する取組

小学校・中学校とも、豊かな心を育成するために、校内研究のテーマを「豊かな心の育成」として学校全体で研究、推進している取組や、「こころ・ときめきスクール」推進委託事業の活用により外部教育力を活かした教育活動を展開している取組、ひまわり環境ISOにより環境に優しい活動を実践している取組などがあげられました。また、道徳教育と各教科・特別活動・総合的な学習の時間などを相互に関連させた教育活動や、読み聞かせ、朝読書、朝の「あいさつ運動」などの日常的な活動を通して豊かな心を育てている例もあげられました。

これら以外にも中学校では、ふれあい体験学習での職業体験や福祉体験、心肺蘇生法実技講習会などの体験活動や、ボランティア活動による地域清掃や地域での緑化作業、部活動、などが豊かな心を育成する取組としてあげられました。



## V めざす大人像

これからの社会は極めて不透明で、長期的な予測は難しい状況です。だからこそ、教育の果たす役割は大きいと言えます。一人ひとりが人間として自立し、それぞれの個性を伸ばしその可能性を開花させることが重要です。そのためには、その基礎を培うことが義務教育に求められます。

これまで座間市では、学校教育指導計画にある「学校教育の目標」に沿って豊かな心の育成を図ってきました。この「学校教育の目標」を達成できた姿が、豊かな心の育った、めざす子ども像となるわけです。

当初、策定委員会では、「具体的にイメージできるめざす子ども像」、「めざす姿に近づくための日々の行動」の2つを記述する方向で討議が進みました。しかし、何度も話し合いを重ねる中で、めざす子ども像は、「こんな大人になってほしい」という姿にたどり着く過程の姿であると捉え、「めざす大人像」を明らかにすることとしました。

座間の教育を受けながら、やがてその子たちが大人になったときには、こうなっていてほしいというめざす姿に向けて、学校教育の目標を大事にしながら、豊かな心を育成していこうという結論になりました。

### 「こんな大人になってほしい」

- 自分のよさを大切にし、健康で自立した生活を送る。
- 正義を尊び、自らを律し、責任ある行動をとる。
- 目標に向かって学び続け、新たな価値を創造する。
- 温かな心で人とかがわり合い、奉仕の心で人の役に立つ。
- 郷土への愛と誇りを持ち、国や社会の発展に尽くす。

なお、「学校教育の目標」は「豊かな心を育むひまわりプラン」では、保護者や地域の方にも親しみやすいように、「学校がめざしていること」としています。



## VI 豊かな心とは

「豊かな心」とは、実り多い豊かな自己実現が果たせる心であり、子どもたちが、前ページの「こんな大人」になりたいと願い、それを目標として自発的に行動する「心」、また仲間と共に努力する「心」と捉えています。

心は見えませんが、行動に表れます。子どもたちの日々の行動の中には、「豊かな心」の小さなつぼみが芽生えています。興味をもって学ぼうとする心、歌や絵を愛する心、自然の不思議に感動する心、あやまちを正そうとする心、困った人を助ける心、行いを反省する心、など。私たち大人は、それらのつぼみを見つけ、育て、個性豊かな花を咲かせてあげたいと思います。

「豊かな心を育むひまわりプラン」が最終的にめざすのは、より高く、大きく、たくさんの自己実現を果たすとともに、周りの人と一緒に前向きに幸せに生きることです。

例えば、

・ある児童は、体育の時間にどうしても鉄棒で逆上がりができず、休み時間も放課後も手にまめを作りながら何度も繰り返し練習をしていました。その子を励ましながら一緒に練習を見守った友人は、その子が初めて逆上がりできたとき、まるで自分のことのように喜びました。

目標に向かってあきらめずにがんばり続ける児童にも、それを見守る友人にも心の豊かさを感じます。

・突然転校することになったある小学生は、下校時に毎日優しく声をかけて自分たちの安全を見守ってくれた地域の方に、感謝のお手紙を渡しました。

毎日見守ってくれていた地域の方への思いを心の中にしまっていたのでは、相手に伝わりません。自分の思いを手紙に託したことで、心が目に見える形となってあらわれたのです。

・以前、ある中学校から駅までの通りは空き缶やペットボトルなどが散乱し、生徒達が一斉にゴミ拾いをしても、次の週には再びゴミでいっぱいになってしまうような状態でした。このような中、中学生でも何か役に立てることはないだろうかと生徒会で話し合い、地域の方々とともに通りに花壇を作る取組が始まりました。やがて、春は菜の花、夏はひまわり、秋には赤やピンクのコスモスの群生が道行く人の目を楽しませるようになると、いつの間にかゴミのポイ捨てがなくなったそうです。

地域を大切に思う生徒達の心が美しい環境を作り出し、本来人の持つ心の優しさや感性を引き出したのではないのでしょうか。

・地域のいっぺい窪のホタルを見に行った姉弟は、ホタルを守る活動をしている方々の存在を知りました。その後二人は、その方たちと一緒に、湧水付近および通学路の清掃活動を平成19年から続けています。

まちの環境美化活動を続ける姉弟の行動は、座間の宝物である湧水を守りたいという強い思いが、行動となって奉仕の心や感謝の心となって表れた姿であり、豊かな心が育っている姿と捉えられます。

このように、人間としてこうやっていきたい、こうなりたいという心の動きや高まりが表出されたときに、ああこの子は育ってきたなあと感じられるのです。つまり、座間市教育委員会としては、行動に表れているということ、豊かな心が育っていると捉えたいと考えています。





## Ⅶ 豊かな心を育むために

座間市教育委員会では、めざす大人像として「こんな大人になってほしい」という目標を定めましたが、その実現に向けて、児童生徒期に特に重点をおいて取り組むべきことを検討しました。

豊かな心を育成していく上で、それを支えるのは学校と家庭と地域に他なりません。その三者が、「豊かな心を育成する」という同じ方向を向いて、共に連携・協力していくことが何よりも大切なことです。それとともに、学校、家庭、地域の三者がしっかりと役割分担をして、それぞれの場でできることを絞って、特に意識して取り組む視点を明確にしていくことが重要です。具体的な例として、学校、家庭、地域のそれぞれにおいて、座間市のめざす「豊かな心」の育成につながると思われることを、次のようにあげてみました。

### 1 学校では

- ・一人ひとりの心を大切にされた学級経営を通して、温かな人間関係を育てます。
- ・様々な体験活動を通して、本物に触れさせ感動する心を育てます。
- ・道徳の時間を要とし、学校生活全体を通して、心に響く道徳教育を行います。
- ・異学年交流活動や部活動を通して、思いやりの心を育てます。
- ・教育活動全体を通して、健康への意識やたくましい心と体を育てます。
- ・子どもたちの心をゆり動かす授業を行い、自ら学ぶ意欲を育てます。
- ・学び合いや言語活動の充実を通して、考える力や表現する力を育てます。
- ・読書活動を通して、幅広い知識を身につけ豊かな心を育てます。
- ・係活動や委員会活動を通して、働く喜びや責任感を育てます。
- ・地域の方々との交流を通して、地域を大切にする心を育てます。



### 2 家庭では

- ・みんなで、笑顔であいさつをしましょう。
- ・みんなで、「ありがとう」「ごめんなさい」と素直に言いましょう。
- ・子どもに愛情を注ぎ、一緒に過ごす時間をつくりましょう。
- ・「早寝、早起き、朝ごはん」を合言葉に、生活習慣を整えましょう。
- ・家族の一員として、子どもにも家事を分担させましょう。
- ・みんなで、きまりや約束を守りましょう。
- ・善悪のけじめ、区別をきちんと教えましょう。
- ・善いことをした時は褒め、悪いことをした時は諭し、改めさせましょう。

### 3 地域では

- ・名前を呼んで声をかけ、明るく挨拶をしましょう。
- ・優しい心と笑顔で、どの子も分け隔てなく育みましょう。
- ・大人が手本となり、子どもたちに社会のルールを教えましょう。
- ・心安らぐ町になるように、地域の環境に目を配りましょう。
- ・子どもたちが地域の一員として、様々な体験をする機会を増やしましょう。

## VIII ぎまっ子 八つの誓い

座間市の教育の伝統的な流れとして、「幼年会」がありました。この幼年会では、「柿の木の下  
の誓い」というものがありました。鈴木利貞から、皆が仲良くすることの大切さを教わった子ども  
たちが、遊び場であった柿の木の下で、太鼓を叩いて遊びながら、「これからは家の方で遊ぶとき  
も、学校で先生に言われたとおりにしよう」「喧嘩やいたずらはしないこと」などを決めました。  
つい忘れて誓いを破った者は、村のお地蔵様にあやまったという歴史があります。

そういったことを、今の時代に合わせてできないだろうか。また、子どもたちが「こんな大人」  
になるためにどういうところに向かっていけば良いのかということ、子ども自身が考えることも  
必要ではないかということから、「豊かな心を育むひまわりプラン」に、「ぎまっ子 八つの誓い」  
として盛り込みました。

「ぎまっ子 八つの誓い」を決めるにあたっては、座間市の小中学校全児童生徒に、「豊かな心」  
を育てていくには、いつもどのようなことを大切にしながら行動していけば良いのかを考えてもら  
い、みんなで守っていく約束をきめるために次のようなアンケートをとりました。

### アンケート

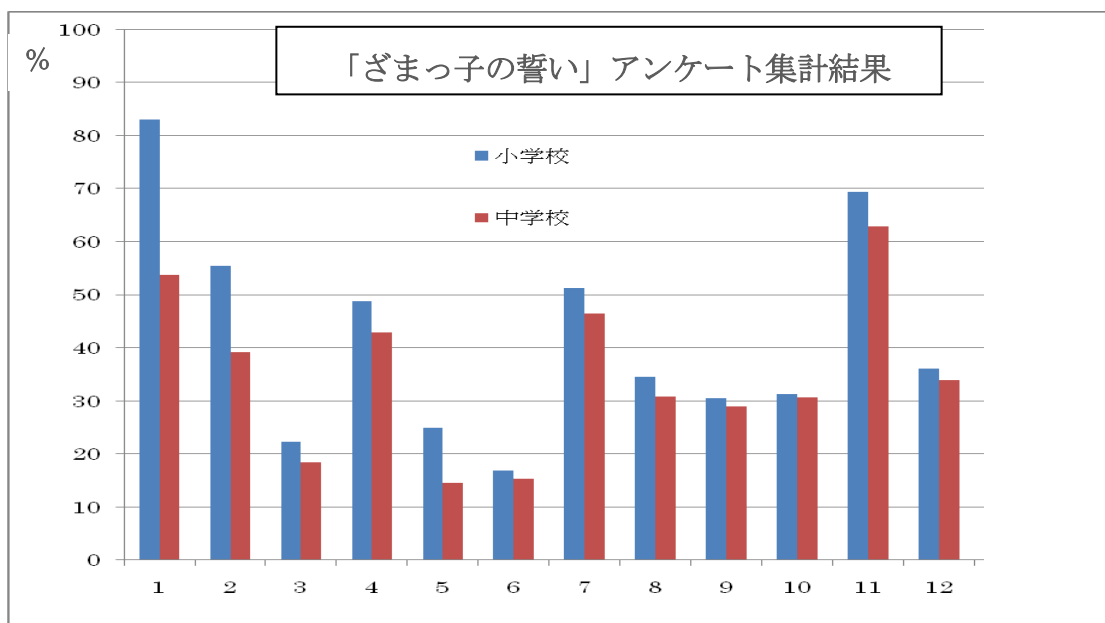
昔、座間市には「幼年会」という子どもたちの集まりがあつて、「柿の木の下  
の誓い」という約束をみんなで作って、仲良く遊んだり、助け合つて家の手伝いをしたりしたそうです。  
このような、座間市の昔の子どもたちが自分たちで約束を決めて、自分たちで守っていた  
という行いを、わたしたちも大切にしていきたいと考え、皆さんの意見を聞きたいと思つてい  
ます。

ここに、座間市の小・中学校の代表の先生で考えた「豊かな心」を育むために大切だと思  
うことを、12個載せてあります。

この中で「豊かな心」を育てていくために、座間市の小中学生みんなで守っていきたく  
いと思うことを考え、5つ選んで○をつけてください。

- 1 お父さん、お母さん、お年寄り（家族）を大切にします
- 2 自然を大切にし、地球に優しい生活をします
- 3 住んでいる町や国を大切に思い、世界に目を向けます
- 4 毎日明るく元気にあいさつをします
- 5 早寝、早起きをします
- 6 読書で世界を広げます
- 7 困っている人に手をさしのべ、優しく接します
- 8 人の役に立つことを進んで行います
- 9 運動（スポーツ）を通して、心と体を鍛えます
- 10 何事にも積極的にチャレンジし、粘り強く取り組みます
- 11 友だちを大切にします
- 12 約束や決まりは、いつでもしっかり守ります





各項目に対する「座間市の小中学生みんなで守っていききたいと思う」と回答した児童生徒の割合。(回答数÷在籍数×100) ※複数回答あり

### 【 選定基準と結果 】

選定基準は、小学校中学校ともに、30%以上の子どもが大事だと思っているものとししました。

策定委員会で話し合った結果も、同様に、30%以上の子どもが選んだ項目については、ぜひ守ってほしいという結論になり、子どもの思いと大人の思いが一致した次の8つの項目を選定することにしました。

- 1 毎日明るく元気にあいさつをします
- 2 家族を大切にします
- 3 友だちを大事にします
- 4 困っている人に手をさしのべ、優しく接します
- 5 人の役に立つことを進んで行います
- 6 何事にも積極的にチャレンジし、粘り強く取り組みます
- 7 約束や決まりは、いつでもしっかり守ります
- 8 自然を大切にし、地球に優しい生活をします

### 【 誓いの名称 】

選定の結果の8つをごまっ子の誓いにすることから、「豊かな心を育むひまわりプラン」における名称を「ごまっ子 八つの誓い」とすることに決定しました。

なお、この「ごまっ子 八つの誓い」は、常日頃から目に入るように各家庭での掲示を依頼するほか、地域の掲示板や公共施設にも貼りだして、誰もが言えるようにしていきます。

## IX 「豊かな心を育むひまわりプラン」のイメージ図

「豊かな心を育むひまわりプラン」の全体像が、一目でつかめるような図を作ることで、座間市に住む子どもも保護者も地域の方々も、このプランの実現に向けて一緒に取り組んでいただきたいと考えました。



- ・全体として、本市のシンボルマークの構図を基にしています。
- ・中央の水色は、座間市を流れる相模川、鳩川、目久尻川を表しています。
- ・左上の緑の山は、座間市民に親しみ深い大山を表しています。
- ・右下の群生するひまわりは共に育つ姿を表しています。
- ・学校、家庭、地域は、ひまわりが大きく育つ土壌の役割を示し、そこから養分を受け取っている様子を表しています。
- ・中心のひまわりの花は豊かな心が育っている姿で、5つの葉は、めざす姿を表しています。
- ・「根から養分を吸収し、葉で行動目標を実践し、豊かな心という花が咲く」というイメージです。

## X 学校がめざしていること <学校教育の目標>

座間市教育委員会では、平成16年から豊かな心の育成を重点主題とし、学校教育の目標を次のように定めています。市内全小中学校がこの学校教育の目標の実現に向けて取り組んできました。今回、「豊かな心を育む教育指導計画」の策定委員会で協議した結果、学校教育においては、これまでの学校教育の目標を達成できた姿がめざす子ども像であり、さらに義務教育卒業後も小中学校で芽生え膨らんだ豊かな心を大切に、自ら育てる思いを持ち続けていってほしいと願っております。そこで、今後の10年間についても現行の学校教育の目標を継続していくことになりました。

### 1 心豊かな児童生徒の育成

- (1) まわりの人たちと協力しながら、より高い目標に向かって努力する心を育てる。
- (2) 礼儀や思いやり、感謝の心、感動する心など豊かな心を育てる。

### 2 心身ともに健康な児童生徒の育成

- (1) 健康的で望ましい生活習慣を身につけようとする態度を育てる。
- (2) 自らの人生をたくましく切りひらく強い心とからだを育てる。

### 3 強い意志を持って、自ら意欲的に学ぶ児童生徒の育成

- (1) 自ら課題をもち、忍耐強く解決しようとする学習態度を養う。
- (2) 問題解決のために必要な知識や技能を、進んで身につけようとする態度を養う。

### 4 進んで働き、よりよい社会をめざす児童生徒の育成

- (1) 社会のために進んで働こうとする強い意志と責任感を育てる。
- (2) 真理を愛し、正義を尊び、互いの人格を尊重する態度を養う。

### 5 わが国の文化や伝統を尊重するとともに世界の人々と共生できる児童生徒の育成

- (1) 座間市の文化や風土を愛し、よりよい郷土づくりに努力する態度を養う。
- (2) わが国の文化や伝統を愛し、世界の平和と人類の幸福の実現に役立つ人を育てる。

## 策定における検討経過

### 第1回 平成21年8月21日（金）

- ① 委員長選出
- ② 座間市の教育概要、学校教育の現状と課題
- ③ 「豊かな心を育む教育指導計画」の方向性について
- ④ 「めざす子ども像」について

### 第2回 平成22年1月12日（火）

- ① 「めざす子ども像」について
- ② 具体的な姿について

### 第3回 平成22年6月25日（金）

- ① 「座間市の教育がめざす姿」について
- ② 「豊かな心のイメージ図」について
- ③ 具体的な姿について
- ④ 「豊かな心の推進」の柱について
- ⑤ 「ざまっ子の誓い」について

### 第4回 平成22年8月24日（火）

- ① 「こんな大人になってほしい」について
- ② 「豊かな心を育む」について
- ③ 「豊かな心を育む10の方針」について
- ④ リーフレットのレイアウト、タイトル等について
- ⑤ 「ざまっ子の誓い」について

### 第5回 平成22年12月15日（水）

- ① 「リーフレット」について
- ② 「ざまっ子の誓い」について
- ③ 「豊かな心を育むひまわりプラン」の素案について

### 第6回 平成23年2月21日（月）

- ① パブリックコメントの結果について
- ② 「豊かな心を育むひまわりプラン」について
- ③ 「リーフレット」について



資料 豊かな心をはぐくむ教育の推進のための調査用紙 〈平成21年7月実施〉

<p>「豊かな心をはぐくむ教育の推進のための調査」</p> <p style="text-align: center;">回答 (                      学校)</p> <p>1. 貴校の児童生徒の現状について伺います。</p> <p>(1) 「学校評価、学校アンケート」や「校内研究、実態調査アンケート」、「全国・学力学習状況調査の結果」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」などから見える、貴校の子どもたちの実態について①～⑤までの項目別に御記入ください。</p> <p>① 学習面</p> <p>② 心の側面</p> <p>③ 体力面</p> <p>④ 家庭・地域の側面</p> <p>⑤ その他</p> <p>(2) 貴校の教育上の課題について、自由に御記入ください。</p>	<p>2. 貴校の「豊かな心の育成」に関する取り組みについて伺います。</p> <p>(1) 貴校で豊かな心の育成につながると考えている取り組みについて箇条書きで御記入ください。</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>(2) 特に成果があると思われる取り組みは上記の何番目で、どのような成果が現れたか御記入ください。</p> <p><input type="checkbox"/> 番</p> <p><input type="checkbox"/> 番</p> <p><input type="checkbox"/> 番</p>
--	---

策定委員会構成員

学識経験者	国立教育政策研究所 (教育心理学) 山森 光陽
教育長	金子 槇之輔
教育委員長	片野 一二 (平成21年8月～11月) 馬場 悠男 (平成21年11月～平成22年11月) 小野田 順子 (平成22年11月～平成23年3月)
小学校長の代表	島田 克己
中学校長の代表	平本 岳男 (平成21年度) 廣瀬 豊 (平成22年度)
幼稚園長の代表	小松原幼稚園 庄司 秋子
特別支援学校長の代表	座間養護学校 杉本 由美子
高等学校長の代表	座間高等学校 堺 和 幸



座間市のシンボルマークです。